

地區又ハ組合員ノ營業ノ種類ノ増減ニ關スル定款ノ變更ハ前項ノ決議ノ外編入又ハ削除セラルヘキ區域若クハ營業ノ種類ニ屬スル組合員タルヘキ者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之レヲ準用ス
定款變更ノ認可申請書ニハ其變更ノ理由ヲ記載シタル書面及決議録ノ謄本並ニ第二項ノ場合ニ於テハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添付スヘシ

第二十二條 組合員ノ少數ナル組合ニアリテハ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フル事ヲ得

總會ニ於ケル各組合員ノ表決權ハ平等トス

總會ニ出席セサル組合員ハ書面ヲ以テ表決ヲナシ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得

此場合ニ於テハ其組合員ハ之レヲ出席者ト見做ス

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定メアルトキハ之ヲ適用セス
組合會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第二十三條 組合ニ評議員會ヲ置ク但シ組合員少數ナル組合ニアリテハ評議員會ヲ置カサルコトヲ得

評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十四條 評議員會ノ職務權限左ノ如シ

一、組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト

二、組合ノ財産及業務ノ狀況ヲ監査シ每事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト

三、組長ノ諮詢ニ應スルコト

四、其他定款ノ規定ニヨリ其職務權限ニ屬スル事項

第二十五條 評議員會ハ組長之ヲ招集ス

評議員ノ三分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其招集ノ理由ヲ示シ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ招集スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間内ニ評議員會ノ招集ノ手續ヲナササルトキハ請求者ハ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十六條 第十九條及第二十條ノ規定ハ評議會員ニ之レヲ準用ス

第二十七條 組合會、總會及評議員會ノ議長ハ決議録ヲ作り左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺印スヘシ

(一)開會ノ日時及場所(二)代議員若クハ評議員ノ定數又ハ組合員ノ數(三)出席者ノ員數(四)議事ノ要領(五)議決シタル事項(六)贊否ノ數

第二十八條 組合ノ役員及検査員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添付ス

ヘシ

第二十九條 組合ハ検査員ノ資格選任、解任、及給與ニ關スル規定ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之レヲ變更セントスルトキ亦同シ

第三十條 組合ノ検査員ノ服務ニ關スル規定中ニハ服務規律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

組合ノ検査員ノ職務ヲ停止シ又ハ給與ヲ減額セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 組合ノ役員及検査員ノ解任認可申請書ニハ其事由ヲ記載スヘシ

第三十二條 組合ノ事業年度ハ一年トス

第三十三條 組合經費ノ豫算及徵收法ノ認可申請ハ事業年度二ヶ月前ニ經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後三ヶ月内ニ之レヲ爲スヘシ

第三十四條 組合ニ於テ定款ノ施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ農商務大臣ニ之レヲ届出ツヘシ其之レヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條 役員ノ缺クタル場合ニ於テ補缺選舉ノ手續キヲ行フ者ナキ時ハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其手續ヲ行ハシム

第三十六條 組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ其清算人トス但定款ニ別段ノ定メアルトキ又ハ組合會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニアラス

清算人ハ其氏名住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十七條 前條ノ規定ニヨリテ清算人タル者ナキトキハ地方長官之レヲ選任ス

第三十八條 清算人其任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ其結果ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第四十條 組合會ヲ設置シ之レニ加入シ又ハ之ヨリ脱退スルニハ組合會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

脱退ニ關スル組合會ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 聯合會ヲ設置セントスルトキハ各組合ニ於テ選定シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ全員ノ同意ヲ以テ定款ノ作成其他必要ナル事項ヲ議定スヘシ

創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ定款其他議定シタル事項各組合ノ組合會ニ於ケル聯合會設置ニ關スル決議録ノ謄本及創立委員會ノ決議録ノ謄本ヲ添付シ農商務大臣ニ設置ノ認可ヲ申請スヘシ

聯合會ノ定款ニハ第十三條第一項第一號乃至第三號、第五號、第八號乃至第十一號ニ掲クル事項並所屬組合ノ名稱、加入脱退、權利義務代表員ノ定數及任期ニ關スル規定ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條及第八條ノ規定ハ創立委員會ニ之レヲ準用ス

第四十二條 聯合會ニ總會ヲ開ク

總會ハ所屬組合ノ代表員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十三條 第一條、第十二條、第十三條第二項、第十四條、第十六條乃至第二十條、第二十一條第一項第四項及第二十三條乃至第三十九條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 地方長官ハ組合又ハ聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲナサシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第四十五條 組合ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ地方長官ニ委任ス

(一)定款變更ノ認可(二)役員ノ選任並検査員ノ選任及解任ノ認可(三)重要物産同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任(四)重要物産同業組合法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員ノ解任ノ認可(五)検査員ノ服務ニ關スル規定ノ認可(六)經費ノ豫算及徵收法ノ認可(七)經費ノ豫算又ハ其徵收法ノ變更ヲ命スルコト(八)地區ノ範圍營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコト(九)重要物産同業組合法第十五條第二號及第三號ノ處分

前項ノ規定ハ一府縣内ヲ區域トスル聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十六條 地方長官ハ前條ノ規定ニヨリテ處理シタルトキハ第一項第五號ノ場合ヲ除ク外農商務大臣ニ其報告ヲナスヘシ但シ前條第一項第二號乃至第四號ノ報告ハ組長、副組長及重要物産同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル検査員ニ限ル

第四十七條 本則中地方長官トアルハ主タル事務所々在地ノ地方長官トス

第四十八條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ又ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ聯合會ノ區域二以上ノ府縣ニ亘ル場合ニ於テハ農商務大臣ニ於テ又ハ農商務大臣ニ對シテ之ヲ爲スモノトス

第四十九條 本法中府縣、郡市トアルハ府縣制郡制市制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之レハ準用スヘキモノニ該當ス

第五十條 農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附 則

第五十一條 本則ハ大正五年七月一日ヨリ之レヲ施行ス

第五十二條 本則施行前ニ爲シタル發起ノ認可ハ第十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ本則施行ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルモノト見做ス

第五十三條 本則施行前組合又ハ聯合會設置認可ノ申請アリタル場合ニ

於テハ本則施行後六月間仍從前ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得

第五十四條 組合又ハ聯合會ノ定款ニシテ本則ノ施行ニ依リ變更ヲ要スルモノニ付テハ本則施行後一年內ニ其變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十五條 明治三十四年農商務省令第十三號ハ之レヲ廢止ス

重要物産同業組合法及取扱手續ニ

關スル件

大正五月、日商第八九九號、次官通牒
同六年二月商、二二〇二號、次官通牒追加

記

第一、設置發起認可申請ニ關スル事項

同業組合設置發起認可申請アリタルトキハ左記事項ヲ詳具シ意見ヲ附シ進達スルコト

特別ノ事情アルモノヲ除クノ外組合地區内ニ於ケル各品種一年ノ生産製造又ハ販賣額拾萬圓ニ滿タサル場合ハ發起認可ヲ爲サ、ルコト

記

- (一) 組合ノ豫定地區
- (二) 組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類
- (三) 同業者ノ員數、但シ營業毎ニ區別スルコト
- (四) 豫定地區内ニ於ケル物産ノ最近三年間ニ於ケル毎年ノ生産製造又ハ販賣ノ數量價額並主ナル販路及其ノ各地ヘ仕向ケタル數量價額
- (五) 豫定地區内ニ於ケル物産ノ地方經濟上重要ノ程度
- (六) 組合ノ設置ヲ必要トスル理由現ニ營業上ノ弊害アル者ニ在リテハ其事實及之ヲ矯正スヘキ方法
- (七) 業務ノ概目

(八) 營業品ノ検査ヲ行ハムトスルモノニ在リテハ其ノ検査ノ方法検査員ノ數及之ニ要スル費用ノ概算

(九) 創立費及經費ノ概算並收入ノ財源

(十) 發起人タルヘキ者ノ員數營業ノ種類及其主タル者ノ同業者間ニ於ケル地位經歷並性行ノ概要

第二、設置認可申請ニ關スル事項

- 一、設置認可申請書ニ添付スヘキ書類中法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書類ニハ組合員タルヘキ者ノ總數並同意ヲ表示シタル者ノ數ヲ記載シ當該行政廳ノ證明ヲ得タルモノヲ添附スルコト
- 二、同意表示書ノ正本ヲ添附スル場合ニ於テハ同意ヲ表示シタル者ノ數ニ付テハ行政廳ノ證明ヲ要セサルコト

第三、定款ニ關スル事項

同業組合定款ノ規定ニ付テハ左記事項ニ注意スルコト

一、組合員ハ地區内ニ於テ營業ヲ爲ス限リハ脱退スルコトヲ得ヘキモノニアラサルヲ以テ組合員カ單ニ住所ヲ地區外ニ移轉シタル事實ヲ以テ脱退ノ理由トナスヲ得ス故ニ住所ノ如何ニ依リテ組合員タルノ資格ヲ定ムル規定ヲ爲サ、ルコト

二、加入者カ組合ノ從來ノ施設ニ付利益ヲ受クル場合ニ於テ加入金等ノ名義ヲ以テ特別ノ負擔ニ任セシムルハ不可ナク又組合カ組合員ノ行爲ニ依リ責任ヲ負フヘキ規定ヲ有スル場合ニ於テ信認金ヲ納入セシムルハ不可ナシト雖モ加重ノ要件トシテ加重ノ負擔ニ任セシムルカ如キハ法律ニ於テ加重義務ヲ負ハシメタル趣旨ニ對シ妥當ナラサルニ依リ其ノ金額及其ノ納期等ニ付慎重ノ注意ヲ爲スコト

三、外國貿易上ニ於ケル賣崩ノ弊ヲ防ク爲メ必要ナル場合ノ外商品ノ價

格ヲ組合ニ於テ定ムル規定ヲ設ケシメサルコト

四、極メテ特別ノ事情アル場合ノ外口錢、手数料、又ハ賃金等ヲ組合ニ於テ定ムル規定ヲ設ケシメサルコト

五、違約者ニ對シテ爲ス商取引ノ停止ハ其ノ事由ヲ具體的ニ規約セシメ且ツ其ノ停止ノ最長期間ヲ規定セシムルヲ要ス若シ期間ヲ定メ難キモノニ在リテハ事故ノ止ミタルトキ又ハ評議員會又ハ役員會ニ於テ改悛ノ情アリト認ムルトキハ之ヲ解除スヘキ規定ヲ設ケシムルコト

六、組合員ノ使用スル職工又ハ雇人ヲシテ直接ニ組合ニ對スル義務ヲ負ハシムル規定ヲ設クルハ定款ヲ以テ組合員外ノ者ヲ羈束セムトスルモノナルニ依リ不可ナルコト

七、既ニ解雇セラレタル職工又ハ雇人ト雖モ前雇主ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ他ノ組合員ハ之ヲ使用スルコトヲ得サル旨ヲ規定シ之ニ違背シタ

ル者ヲ違約處分ヲ付セントスルカ如キ規定ヲ設ケシメサルコト

八、組合員ニ對シ職工又ハ雇人ノ使用ヲ停止セシメムトスルトキハ其事由ヲ具体的ニ規定シ且相當ノ停止期間ヲ定メシムルヲ要ス若シ其ノ期間ヲ定メ難キ場合ニ於テハ事項ノ止ミタルトキ又ハ改悛ノ狀アリト認ムルトキハ之ヲ解除スヘキ規定ヲ設ケシムルコト

九、副組長又ハ評議員ヲシテ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌セシメントスル組合ニ對シテハ分掌セシムヘキ事務ノ種類ヲ定欸中ニ明記セシムルコト

一〇、仲裁判斷ニ付テハ當事者雙方ノ請求ニ依リ評議員會若クハ役員會ノ決議又ハ評議員會若クハ役員會ニ於テ選定シタル委員之ヲ行フヘキ旨ノ規定ヲ設ケシムルコト

一一、組合ニ對シテ不正ノ行爲アル役員ノ解任ヲ總會又ハ組合會ニ於テ

決議セムトスル場合ニ在リテハ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テスル等其決議ヲ慎重ナラシムル規定ヲ設ケシムルコト

一二、役員ノ職務懈怠等ニ對シ違約處分ヲ爲サムトスルカ如キ規定ヲ設ケシメサルヲ可トスルコト

一三、單ニ會議ノ議長ハ組長ヲ以テ之ニ充ツ決議ハ過半數ノ同意ニ依ル可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ストノ規定ヲナシ何等例外規定ヲ設ケサルトキハ業務成績及經費決算報告ノ認定等自ラ執行シタル事項ノ認否ヲ自ラ決スル場合アルヘク不條理ニ陥ルヲ以テ相當例外規定ヲ設ケシムルコト

一四、不正行爲信用ヲ害スル行爲爲組合ノ目的ヲ妨クル行爲又ハ定欸諸規則若クハ組合會又ハ總會ノ決議ニ反スル行爲等ノ如キ漠然タル規定ノ違反ニ對シ違約處分ヲ爲サムトスルハ不可ナルヲ以テ違約事項ハ具体

的ニ之ヲ規定セシムルコト

一五、營業品ノ検査ヲ行ヒ検査證ヲ附スヘキ規定ヲ設ケタル場合ニ於テハ如何ナルモノヲ合格品トナシ如何ナルモノヲ不合格品ト爲スヘキヤノ標準ハ明確ニ之ヲ規定セシムルコト

一六、組合ニ於テ検査ヲ爲シ合格又ハ不合格ヲ示ス證印ヲ押捺スル場合ニ於テハ官立又ハ公立ノ検査所ニ於テ使用スル證印ト判然區別シ得ル證印ヲ使用セシムルコト

一七、違約處分トシテ徵收スヘキ過怠金ノ額ニ付テハ最高限度ヲ定メシムルコト

一八、加入金又ハ信認金ヲ納付セサル者若クハ過怠金ヲ納付セサル者ヲ更ニ違約處分ニ附シ過怠金ヲ徵スルノ規定ヲ設クルハ不可ナリ故ニ斯ル場合ニハ督促手數ヲ徵スル等相當ノ徵收方法ノ規定ヲ設ケシムル事

一九、違約處分ニ關スル費用ヲ被處分者ニ負擔セシムトスル規定ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ費用ノ範圍ヲ明記セシムルコト

二〇、組合解散ノ場合ニ於テ殘餘財産アリタルトキ又ハ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ如何ニ之ヲ處分スヘキヤノ規定ヲ設ケシムヘク若シ解散當時組合員タリシ者ニ分配若クハ分賦セムトスル場合ニ於テハ分配若クハ分賦ノ方法ヲモ併セ規定セシムルコト
 二一、定款變更認可シタルトキハ新舊條文ヲ別紙ト爲スカ又ハ之ヲ交互ニ記載シ一見新舊ノ區別ヲ明瞭ニシ併セテ其ノ理由ヲ報告スルコト

第四、役員認可申請ニ關スル事項

役員ノ氏名、住所、職業、就任事由、年月日並前任者退任事由及其年月日ヲ記載スルコト

第五、經費ノ豫算並徵收法ニ關スル事項

- 一、歳出豫算中各費目（豫備費ヲ除ク）ノ金額ヲ彼此流用スルハ當初豫算ヲ設クルノ趣旨ニ反スルヲ以テ之ヲ流用スルコトヲ得サラシムヘシ但シ不得止必要アルトキハ評議會員（評議員會ナキトキハ評議員）ノ諮詢ヲ經同欸内項目ノ金額ノミ流用スルコトヲ得
- 二、定欸豫算内支出ニ充ツル爲メ必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スルモノ、外往々經費ニ屬スル歳出ヲ借入金ヲ以テ支辨スルノ豫算アリト雖モ特別ノ場合ヲ除キ經常費ハ經常收入ヲ以テ之ヲ支辨セシムルコト
- 三、借入金ヲ爲ストキハ一時借入金ヲ除ク外豫算ト共ニ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ年度財源其ノ他ノ方法ヲモ併セテ之ヲ議定セシムルコト
- 四、經費徵收法中ニハ其ノ賦課ノ種目賦課標準課率並徵收期限其ノ他賦

課徵收ノ方法ヲ記載セシムルコト

- 五、組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費ハ必ス之ヲ豫算ニ編入セシムルコト
- 六、經費豫算式

何年度何々同業組合（聯合會）經費豫算

歳入

科 目 第 一 何 々	第 一 項 何 々	第 一 欸 何 々	目		對 比 增 減	附 記
			本 年 度 豫 算 額	前 年 度 豫 算 額		
			円	円	円	

款第一 事業費	科目	歲出	合計	款第三		
				目第一 何々	項第一 何々	目第一 何々
円	算本 年度 額豫	出				
円	算前 年度 額豫					
円	對 増					
円	比 増					
円	減					
	減					
	附					
	記					

項第一 何々	款第二 何々	目第三 何々	目第二 何々	目第一 何々	項第二 何々	目第三 何々	目第二 何々

款第三	目第一	項第二	目第三	目第二	目第一	項第一	款第二
會議費	何々	何々	何々	何々	何々	何々	事務費

目第三	目第二	目第一	項第二	目第三	目第二	目第一	項第一
何々	何々	何々	其他ノ 事業費	何々	旅費	給料	検査費

目第二	目第一	項第一	款第五	目第一	項第二	目第三	目第二
何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々

目第一	項第一	款第四	目第一	項第二	目第二	目第一	項第一
何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々

第三 目 何々	第二 項 何々	第一 目 何々	合 計

備考

- (一) 歳入及歳出ヲ經常臨時ノ二部ニ區別スルハ適宜トス
- (二) 検査費ハ (一)検査員給料 (二)検査員旅費其他ニ區別シ記載スルコト
- (三) 豫算ノ参考トシテ別ニ説明書ヲ附シ欸毎ニ本年度豫算額前年度豫算額對比増減ノ事由ヲ説明スルコト

(四) 附記欄ニハ上欄ノ科目ニ對スル本年度豫算額ノ計算ノ基ク所ヲ詳細ニ記載スルコト

(五) 豫算ノ變更ヲ要スルトキハ「本年度豫算額」ノ欄ヲ「追加(更正)豫算額」トシ「前年度豫算額」ノ欄ヲ「既定豫算額」トシ(附記)ノ欄ニハ追加(更正)豫算額ノ計算ノ基ク所ヲ記載シ別ニ説明書ヲ附シ對比増減ノ事由ヲ説明スルコト

第六 経費決算及業務成績ニ關スル事項

一、決算式ハ豫算式ニ倣ヒ「本年度豫算額」ノ欄ノ「決算額」トシ「前年度豫算額」ノ欄ヲ「豫算額」トシ「附記」ノ欄ニハ上欄ノ科目ニ對スル決算額ノ計算ノ基ク所ヲ詳細ニ記載シ別ニ説明書ヲ以テ對比増減ノ理由ヲ説明スルコト

決算上剩餘金ノ處分及不足額ニ對スル支出ノ方法ハ決算書ニ之ヲ附記

スルコト

二、業務成績記載事項

何年度何々同業組合(聯合會)業務成績

(一) 組合員數

合計	營業別	本年度	前年度	對比增減		附記
				增	減	

(二) 生産製造又ハ販賣數量並價額

輸	向	地	内	本年度		前年度		對比增減	
				種類別 營業品 生産製造 又ハ 販賣數量	價額 單價	種類別 營業品 生産製造 又ハ 販賣數量	價額 單價	增	減

出 輸			向 地 内			檢 查 品 種 類	檢 查 總 數 量	檢 查 成 績 合 格 不 合 格	檢 查 員 數 常 時 臨 時	檢 查 日 數 延
			合 計							

備 考	總 計	出 向	
		計	
(一) 生産製造又ハ販賣業者ヲ以テ組織スルモノニ在リテハ生産製造又ハ販賣ノ數量並價額ハ之ヲ別表ニ記載スルコト			
(二) 内地向製品ニ付テハ仕向先及數量輸出製品ニ付テハ其輸出先數量ヲ各種類別ニ附記スルコト			
(三) 營業品ノ檢査成績			

總計	向	
	合	計

備考

- 一、營業品ニ付等級ヲ定ムル組合ニ在リテハ合格欄ニ等級別ニ數量ヲ記載スルコト
- 但シ定款所定ノ最低限度ニ達セサル製品ハ不合格欄ニ記載スルコト
- 二、不合格品ニ付テハ其ノ主因及不合格品ノ處分ノ狀況ヲ記載スルコト

- 三、検査施行ノ狀況及検査ノ營業品ニ及ホシタル効果
- 四、組合經費徴收ノ狀況並滞納額滞納者ニ對スル處分ノ顛末
- 五、違納處分ヲ爲シタル員數處分ノ種類及其ノ事由
- 六、仲裁判斷若クハ調停ヲ爲シタル事由及顛末
- 七、組合未加入者ニ對シ訴ヲ提起シタルトキハ其顛末
- 八、組合ノ組織セル營業ニ關スル商況
- 九、以上ノ外業務執行ノ狀況及其成績ヲ認ムルニ付必要ナル事項
- 三〇、年度末現在(事業年度)基本財産(積立金)高及其ノ内譯並信認金ヲ徵スル組合ニ在リテハ其總額

備考

前記一號乃至一〇號中該當スヘキモノナキ組合ニ在リテハ其旨ヲ明示スルコト

營業其他ノ物品ニ關シ組合又ハ聯合會ニ於テ調製シタル統計ハ業務成績ニ添付スルコト

組合行事

豫算及徴收法認可申請書提出期

年度末(三月三十一日)二ヶ月前(其年ノ一月若クハ二月)ニ地方廳

ヲ經テ農商務大臣ニ提出スルコト

決算及業務成績報告書提出期

年度末(三月三十一日)三ヶ月後(六月三十日限り)地方廳ヲ經テ農

商務大臣ニ報告スルコト

組合一覽表提出期

毎年十二月限り地方廳ヲ經テ農商務大臣ニ報告スルヲ便宜トスル

コト

間接國稅犯則者處分法

明治三十三年三月法律第六十七號改正四十一年第八號

第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ説明ス

ヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿ス

ト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑

者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得

第四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證

明スヘキ證標ヲ携帯スヘシ

第五條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキ

ハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六條 收税官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會ハシムヘシ
前項ニ掲クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七條 收税官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目錄ヲ作ルヘシ但シ所有者又ハ所持者ハ其ノ差押目錄ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得

差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務管理局長ハ之ヲ公賣ニ附

シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第八條 收税官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得

第九條 收税官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十條 收税官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ顛末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十一條 犯則事件ノ證憑集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ

稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス

稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證憑ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引繼クヘシ

同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ

第十二條 收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ着手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務監督局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調査ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ他ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得

第十三條 收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ

一 犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ

二 犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ

三 證憑湮滅ノ虞アルトキ

第十四條 稅務署長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收品ニ該當スル物品徵收金ニ相當スル金額及書類送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ沒收品ニ該當スル物品ニ付テハ納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ得犯則者通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ナシト認ムルトキハ前項ノ通告ヲ要セス直ニ告發スヘシ

第十五條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷ス

第十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受ケルコトナシ

第十四條第一項但書ニ依ル通告ニ對シ犯則者通告ノ旨ヲ履行シタル場合ニ於テ沒收品ニ該當スル物品ヲ所持スルトキハ公賣其ノ他必要ノ處分ヲ爲ス迄之ヲ保管スルノ義務アルモノトス但シ保管ニ要スル費用ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條 犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行セサルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

キ犯則者ノ居所分明ナラサル爲又ハ犯則者書類ノ受領ヲ拒ミタル爲通告スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第十八條 犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目録ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所有者、所持者又ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引繼ヲ爲シ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第十九條 稅務署長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之カ解除ヲ命スヘシ

第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

間接國稅犯則者處分法施行規則

明治三十三年三月勅令第五
二號改正四十一年第四二號

第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ間接トス

- 一、酒造税
 - 二、酒精及酒精含有飲料税
 - 三、冲繩縣酒類出港税
 - 四、麥酒税
 - 五、醬油税(自家用醬油税トモ)
 - 六、砂糖消費税
 - 七、賣藥印紙税
 - 八、印紙税
 - 九、骨牌税
 - 十、織物消費税
 - 十一、石油消費税
- 第二條 收税官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者所

- 得者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ之ニ封印ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ明白ニスヘシ
- 第三條 差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、箇數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ
- 第四條 收税官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目錄ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ
- 第五條 收税官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所得者ニ通知スヘシ
- 第六條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ

第七條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所得者ニ通告スヘシ

第八條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ調製スル顛末書ニハ臨檢、搜索尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

第十一條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シ

タル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交附スヘシ

第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ搜入、削除又ハ欄外ノ設入シタトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

附 則

本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

間接國稅犯則者處分法施行

細則

明治二十三年十一月大藏省令第卅一號
削除二十六年大藏省令第十一號一部

第一條 間稅國稅犯則者ノ處分ハ其犯則發覺ノ地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ爲スヘシ但犯則ノ地ト犯則發覺ノ地ト其ノ管轄官署ヲ異ニシ犯則ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯則ノ地ヲ管轄スル間稅署又ハ分署ニ移スヘシ

第二條 數箇ノ間稅官署ノ管轄區域內ニ於テ同一ノ犯則ヲ爲シタルモノアルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第三條 一稅則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一箇ノ罪若ハ間稅署ノ處分權限ニ屬スルトキハ其他ノ罪モ間稅署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ

第四條 同稅官吏犯則事件ノ證憑集取ヲ爲スニ際シ若クハ間稅署長又ハ分署長ニ於テ犯則事物ヲ調査スルニ當リ其事物ニ牽連スル他ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキ其普通犯罪ハ管轄裁判所ニ告發シ其犯則事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用ユルモノヲ除クノ外處分法ノ定ムル所ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

第五條 處分法第十一條第二項ノ合計價格ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定セサルモノハ其罰金ノ最多額ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價格ハ間稅官吏ノ見積リ價格ヲ以テ之ヲ算スヘシ

第六條 間稅官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實參考トナルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第七條 間稅官吏ハ犯則事件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ

相當ノモノヲシテ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徴スヘシ

第八條 間税官吏犯則事件ノ捜査ニ著手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證據不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲サル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ附シ直チニ之ヲ間税分署長ニ差出スヘシ

第九條 犯則處分ニ關シ間税官吏ヨリ間税署長ニ差出スヘキ書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ

第十條 間税署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ依リ犯則事件ヲ調査スルニ當リ事實參考トナル可キ事件ヲ發見シタルトキハ間税官ヲシテ之レヲ集取セラルヘシ

第十一條 間税署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ依リ犯則事件ヲ調査スルモ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

第十二條 第十一條ニ依リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條ノ費用ハ之ヲ徴收セサルモノトス

第十三條 (削除)

第十四條 處分法第十一條ノ沒收ニ該ル物品ニシテ市町村又ハ隣佑若クハ本人ニ預ケタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシム可シ

第十五條 間税署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領收シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引繼クヘシ

第十六條 處分法第十一條ノ罰金其他ノ收入金ハ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第十七條 處分法第十二條ニ掲クル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ル可キ者

ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ

第十八條 間税署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯則者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領收證ハ即日之ヲ通告書ヲ發シタル間税官署ニ發送スヘシ

第十九條 間税署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄間税分署長ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

間税署長ニ於テ各分署管内ニ在ル犯則者ニ通告ヲ爲ス場合モ亦同シ

第二十條 間税署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキハ該通告書ノ謄本ヲ犯則者所在地ノ間税分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方ヲ同署ニ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ犯則者期限内ニ通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ之ヲ通

告書ヲ發シタル間税官署ニ報告スヘシ

第二十一條 處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ依ルヘシ

第二十二條 凡ソ犯則處分ニ關スル書類ニハ每葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ挿入削除若クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シタルモノハ其字体ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ

第二十三條 間税分署長ハ其ノ管轄内ニ於テ處理シタル犯則事件ノ處分表ヲ調製シ毎月五日限リ管轄間税署長ニ報告スヘシ

第二十四條 處分法第一條第三項ノ間税官吏タルノ證票同第十一條ノ送達書同第十二條ノ納證施行細則第二十三條ノ犯則事件處分表ハ第一號ヨリ第四號マテノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

(様式畧)

間接國稅犯則者處分法施行ニ就キ

心得方ノ件

明治三十三年三月大藏省訓令第八號改
正沿革四十一年三月大藏省訓令第七號

七十

第一條 收稅官吏臨檢、搜索ヲ爲スハ犯則ノ嫌疑ヲ起スニ足ルヘキ事實アリタルトキニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 收稅官吏犯則嫌疑者參考人ヲ尋問スルハ犯則ノ現場又ハ尋問ヲ受クヘキ者ノ所在ニ就テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 差押物件ニハ常ニ注意ヲ爲シ腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ時機ヲ失セス公賣ニ付シ其ノ代金ノ供託ヲ爲スコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル場合ノ外ハ成ルヘク公賣前差押當時ノ所持者ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第四條 收稅官吏證憑ヲ他ノ稅務署ノ收稅官吏ニ引繼ク場合ニ於テハ所

屬稅務署長ヲ經由スルコトヲ要ス

第五條 犯則事件ノ調査及處分ハ速ニ結了スルコトヲ要ス故ナク遲滯スルカ如キコトアルヘカラス

第六條 稅務署長通告ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク犯則者ノ住所地又ハ居所地所轄ノ稅務署ヲ指示シテ金錢物品ノ納付所ト爲スコトヲ要ス但シ沒收品ニ該當スル物品ニ付ラハ特ニ場所ヲ指示シテ納付セシムル必要アル場合ヲ除クノ外納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ要ス

第七條 通告書ハ金錢物品ノ納付ト指定シタル稅務署ヲ經由シテ送達スルコトヲ要ス

第八條 稅務署長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ且ツ差押物件ノ解除ヲ當該官吏ニ命スルコト

七十一

ヲ要ス
差押解除ノ命令ヲ受ケタル當該官吏ハ直ニ之レカ解除ヲ爲スコトヲ要ス

法人ニ於テ租税ニ關シ事犯ア

リタルトキ處罰制

明治三十三年三月
法律第五十二號

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租税及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ニ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以

内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ完納セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ効力アルモノトス
前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

府縣郡吏員服務紀律

三十五年二月十四日
內務省令第三號

第一條 府縣郡吏員ハ法令ニ從ヒ忠實ニ其職務ヲ盡スヘシ

府縣郡吏員ハ其職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵守スヘシ

第二條 府縣郡吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

第三條 府縣郡吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス

其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ但裁判所ノ召喚ニ依リ職務上ノ秘密ニ訊問ヲ受ケタル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ得タル事件ニ付テハ此限ニ在ラス

第四條 府縣郡吏員ハ職務ノ爲メ出張ヲ命セラレタル場合ヲ除ク外指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其職務ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第五條 府縣郡吏員ハ其職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

府縣郡吏員ハ指揮監督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第六條 左ニ掲クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル府縣郡吏員ハ其ノ者又

ハ其ノ者ノ爲ニスルモノノ饗應ヲ受クルコトヲ得ス

一、府縣郡ノ爲ニ工事又ハ物件調達ノ請負ヲ爲ス者

二、府縣郡ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三、府縣郡ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四、府縣郡ト土地物件ノ賣買贈與貸借若ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五、其ノ他府縣郡ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ンストスル者

第七條 有給ノ府縣郡吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ若ハ家族ヲシテ營業ヲナサシメ又ハ給料若ハ報酬ヲ受クヘキ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第八條 本令ニ於テ指揮監督者ト稱スルハ府縣吏員ニ付テハ府縣知事郡吏員ニ付テハ郡長ヲ謂フ

第九條 郡組合ノ吏員ニ關シテハ郡吏員ニ關スル規定ヲ準用ス

宮城縣職員服務心得

三十九年十二月二十七日
廳訓第二〇號

第一條 廳員(事務官ヲ除ク)出勤シタルトキハ知事官房ニ備ヘタル出勤簿ニ自ラ捺印スヘシ出勤時刻ニ後ルルトキハ遲參トス
公務ノ爲メ遲參シタルモノハ其旨知事官房ニ申出ツヘシ

第二條 事務繁劇ナルトキハ執務時間外ハ勿論休日タリトモ早應服務スヘシ

執務時間後引續キ午後八時ニ至ルモ服務シタルモノ及休日ニ出勤シ五時間以上服務シタル者ハ夜勤及休日勤務簿ニ用務ヲ記載シ當直ノ證明ヲ得翌日部長(官房員ニアリテハ知事)ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 退廳ノトキハ主管ノ書類物品ヲ收藏シ鍵鑰印章ハ當直員ニ保管ヲ託スヘシ

第四條 知事在廳ノ間ハ退廳スルコトヲ得ス但承認ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

部員ノ部長ニ於ケル亦同シ

第五條 欠勤ノ場合ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一、疾病其他ノ事故ニ依リ出勤シ難キトキハ出勤時限後一時間以内ニ其事由ヲ届出ツヘシ
- 二、病氣引籠一週間ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ爾後十日毎ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ
- 三、父母ノ病氣看護年回墓參及轉地療養ノ爲メ任地ヲ離レントスルトキハ期日及行先ヲ記載シ轉地療養ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ
- 四、忌服又ハ父母ノ祭日ニ相當スルトキハ其旨届出ツヘシ
- 五、執務時間中疾病其他ノ事故ニ依リ退廳セントスルトキハ其事由ヲ

届出ツヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テハ其擔任事務ノ處理急ヲ要スルモノアルトキハ其旨部長(官房員ニ在リテハ知事)ニ申報スヘシ

第七條 出張ヲ命セラレタルトキハ知事官房備付ノ發著簿ニ出發月日用件官職氏名ヲ記入捺印シ歸廳シタルトキハ歸廳月日ヲ記入スヘシ

第八條 出張用務ヲ了リ歸廳シタルトキハ上官ニ隨行シタル場合ヲ除クノ外五日以内ニ復命書ヲ差出スヘシ

第九條 出張中左記事項ニ該當スル場合ニ於テハ所屬部長(官房員ニ在リテハ主事)ヲ經テ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

- 一、用務ノ都合ニ依リ豫定日數ヲ起過セントスルトキ
- 二、疾病其他ノ事故ニ依リ滞在スルトキ

第十條 新任地又ハ他ヨリ轉任ノ者ハ就任ノ後三日以内ニ宿所届及印鑑

届ヲナシ五日以内ニ履歷書ヲ差出スヘシ

宿所ノ轉換印鑑ノ變改ハ其時々届出ツヘシ

第十一條 轉免休職等ヲ命セラレタルトキハ部長(官房員ニ在リテハ主事)ノ指揮ヲ受

ケ速ニ其擔任事務及保管ニ係ル文書物品ノ目錄ヲ作り説明ヲ要スルモノハ演說書ヲ添付シ引繼ヲ爲スヘシ

轉任ヲ命セラレタルモノハ一週間以内ニ出發スヘシ

但特命アル場合ハ此限ニアラス

第十二條 廳中ノ文書類ハ知事ノ許可ヲ得スシテ他人ニ示シ又ハ其寫ヲ與フルコトヲ得ス

第十三條 縣廳所屬廳舎ニ出火、近火、風水害其他非常ノ事變アルトキ速ニ昇廳シ上官ノ指揮ヲ受ケテ應急ノ處置ニ服スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テハ先ツ 御眞影ヲ守護スヘシ

其他文書物品ノ搬出順序左ノ如シ

- 一、縣印官印
- 二、機密文書
- 三、諸文書
- 四、物品

附 則

第十五條 本心得ハ明治四十年一月一日ヨリ施行ス

明治三十一年十一月應訓第二號官吏服務心得ハ本心得施行ノ日ヨリ廢止ス

生繭取締規則

大正三年四月十日
縣令第二十號

第一條 生繭ハ名義ノ何タルヲ問ハス賣買其他商取引ヲ爲ス者ハ貫量ヲ

以テスヘシ

第二條 化蛹セサル生繭ハ試驗用トシテ縣ノ許可ヲ得タルモノノ外之レヲ搔取ルコトヲ得ス

第三條 本令ニ違反シタ者ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

附 則

本則ハ大正三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

桑園改良増殖獎勵費補助規程

大正六年一月二十三日縣令第三號

第一條 郡市又ハ郡市農會若ハ郡市ヲ地區トスル蠶絲業ニ關スル同業組合ニシテ桑園ノ改良増殖ヲ獎勵スル目的ヲ以テ左記各號ノ一ニ該當スル事務ヲ爲ス場合ニハ其申請ニヨリ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

- 一、苗圃ヲ設置シテ桑苗ヲ育成シ無償又ハ有償配付ヲ爲ストキ
- 二、桑苗ヲ購入シ無償又ハ有償配付ヲ爲ストキ
- 三、桑園造成ノ目的ヲ以テ桑苗ノ共同購入ヲ爲ス者ニ對シ獎勵費ヲ交付スルトキ

第二條 前條第一號ノ補助金ハ桑苗ノ育成配付ニ要シタル經費ノ五分ノ

- 一以內及其生産セル配付苗木ニ對シ本苗一本ニ付貳厘以內トス但實生苗ノ配付ハ十本ヲ以テ本苗一本ニ換算ス

前條第二號及第三號ノ補助金ハ桑苗ノ購入及配付ニ要シタル經費又ハ獎勵費ノ三分ノ一以內トス

第三條 補助金ハ經費支出決算額ヨリ有償配付ノ場合ニ於ケル桑苗ノ代價其他事業ニ伴フ收入ヲ控除シタル殘額ヲ超過セサル範圍内ニ於テ之ヲ交付ス但シ決算額豫算額ヲ超過シタルトキハ豫算額ニ依ル

第四條 補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ經費ノ收支豫算書及左ノ書類

ヲ添付シ二月末日マテニ知事ニ申請スヘシ

- 一、桑苗育成ノ設計書(第一條第一號ノ場合)
- 二、桑苗配付ニ關スル規程(第一條第一號ノ場合)
- 三、桑苗圃規程(第一條第一號ノ場合)
- 四、桑苗購入交付規程(第一條第二號ノ場合)
- 五、獎勵金交付規程(第一條第三號ノ場合)

第五條 前條ノ申請ニ基キ經費豫算其他事業ノ方法等ヲ調査シ適當ナラスト認メタルモノニ對シテハ補助金ヲ交付セサルコトアルヘシ

第六條 第四條ノ添付書類ノ記載事項ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 補助金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ翌年五月二十日マテニ經費收

支決算書及別記様式ノ事業成績書ヲ添へ補助金ヲ請求スヘシ
附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正二年八月縣令第三十六號桑園改良増殖奨勵費補助規程ハ之ヲ廢止
ス但シ同規程ニ依リ補助金交付ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シテハ仍從
前ノ例ニ依ル

様式

何年度桑園改良増殖事業成績報告

郡 (一)

町 村	新 植		開 墾		熟 木		改 植		計
	木高	刈刈	木高	刈刈	木高	刈刈	木高	刈刈	
數本	別反	數本	別反	數本	別反	數本	別反	數本	別反

同

(二)

補 植		計		交 付 者 數
木高	刈刈	木高	刈刈	
數本	別反	數本	別反	
數本	別反	數本	別反	

備考

- 一、成績添書添付ノ際第一條第一號第一號ニヨルモノハ(第一號)第二號ニヨルモノハ(第二號)第三號ニヨルモノハ(第三號)ト記載スヘシ
- 一、接木砧木育成用種子ノ數量其播種面積並ニ砧木及接木ノ數量ヲ記載スヘシ
- 一、壓條又ハ其方法ニヨリ採苗シタルトキハ各別ニ其他ノ栽植面積

及生産數量ヲ記載スヘシ

蠶種 配付 規程

大正六年一月二十三日縣令第二號

- 第一條 本規程ニ依リ配付スル蠶種ハ一代雜種用原蠶種トス
- 第二條 本蠶種ハ有償ヲ以テ縣内ノ蠶種製造者ニノミ之ヲ配付ス但シ特別ノ事情アルトキハ無償配付ヲナスコトアルヘシ
- 第三條 配付スヘ本蠶種ノ種類、名稱並價格ハ其都度毎年之ヲ公示ス
- 第四條 本蠶種ノ配付ヲ受ケムトスル者ハ第一號樣式ニ依リ毎年四月十日迄ニ出願スヘシ
- 第五條 本蠶種配付ノ有無及其數量ハ十月三十一日迄ニ之ヲ通知ス
- 第六條 本蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ配付數量ノ三十倍以上ニ相當スル蠶種ヲ製造スルコトヲ要ス但シ己ムヲ得サル事由ニ依リ規定ノ數量ヲ

製造スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ具シ知事ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 本蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ其蠶種ヲ一代雜種並其ノ原蠶種ノ

製造以外ニ轉用シ又ハ讓渡、交換若ハ廢棄スルヲ得ス但シ知事ノ承認

ヲ受ケタルトキハ縣内ノ蠶種製造者ニ限リ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第八條 本蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ第二號様式ノ報告書ヲ各種類、名

稱毎ニ翌年十一月三十日迄ニ差出スヘシ

前項ノ報告書提出ニ際シ各種類、名稱毎ニ乾繭三十粒ヲ添付セシムル

コトアルヘシ但シ此場合ニハ豫メ之ヲ通知ス

第九條 第六條乃至第八條ノ規定ニ違背シタル者ニハ爾後二年間本蠶種

ヲ配付セス

附 則

第十條 大正五年度配付ノ蠶種ニ付テハ第四條ノ出願期限ヲ二月十五日

トシ第五條ノ通知期日ヲ二月末日トス

第十一條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號様式) 蠶種配付願

種 類	名 稱	配付請求量	配付蠶種ヨリ製造スヘキ蠶種豫定數
春蠶種	國 化性 蠶 何々		特別蠶種 普通蠶種
同	同		
秋蠶種	同		
同	國 二化性 蠶 何々		

右御配付相成度候也

年月日

郡(市)

町(村)大字

番地

知事宛

氏

名 又ハ名稱印

(第二號樣式)

配付蠶種成績報告

調査事項	種類及名稱	春蠶何々	春蠶何々	秋蠶何々
飼育場所				
掃立月日				
同上蛾數				

同上蠶量	飼育日數	收繭總柵量	對蠶量一匁收繭量	種繭柵量	同巧繭柵量	其他繭柵量	基礎蠶種製造額

特別蠶種製造額	普通蠶種製造額	飼育經過並產卵狀況

備考 飼育經過並產卵狀況ハ詳細ニ記入スヘシ

右報告候也

年月日

郡(市) 町(村) 番地

氏 名 又ハ名稱(印)

知事宛

稚蠶共同飼育組合獎勵規程

大正七年四月五日 縣令第二十二號

第一條 稚蠶共同飼育組合ヲ組織シ稚蠶ノ共同飼育ヲ爲スモノニ對シ郡市又ハ郡市農會若ハ郡市ヲ地區トスル蠶絲業ニ關スル同業組合ニ於テ補助金ノ交付ヲナストキハ毎年度縣豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

郡市又ハ郡市農會若ハ同業組合ニ於テ補助金ヲ設ケサルトキハ稚蠶共同飼育組合ニ對シ前項ニ準シ補助金ヲ交付スルコトアルヘシ
前二項ノ補助金額ハ一組合七拾五圓ヲ限度トス

第二條 前條ノ稚蠶共同飼育組合ハ組合員十五名以上ニシテ左記各號ノ事項ヲ行フモノタルコトヲ要ス
一、教師ヲ備聘スルコト

二、蠶種ノ共同購入共同保護ヲナスコト

三、飼育ノ方法ヲ一定スルコト

四、稚種共同飼育用桑園ヲ設クルコト

五、生産繭ハ可成共同販賣ヲ爲スコト

第三條 前條ノ教師ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一、修業年限二ケ年以上ノ蠶業ニ關スル専門ノ學校又ハ講習所ヲ卒業

シタル者若ハ修業限一ケ年ノ蠶業ニ關スル専門教育ヲ受ケタル後二ケ年以上實地ニ經驗アル者

二、郡市長ニ於テ適當ト認メ特ニ知事ノ認可ヲ受ケタル者

第四條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ經費豫算並ニ稚蠶共同飼育組

合調書(第一號様式)及教師ノ履歷書ヲ添へ毎年三月十五日限リ申請書

ヲ知事ニ差出スヘシ

第五條 郡市又ハ郡市農會若ハ同業組合ニ於テ交付スル補助金ハ一組合

ニ對シ百圓以上タルコトヲ要ス

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ毎年其事業ノ成績ヲ第二號様式ニ

ヨリ春蠶ハ七月十五日秋蠶ハ九月三十日限リ經費ノ精算書ハ第三號様

式ニヨリ十一月三十日限リ知事ニ報告スヘシ

第七條 郡市又ハ郡市農會若ハ同業組合ハ本規程ニ基キ獎勵規程ヲ設ケ

タルトキハ遲滞ナク知事ニ届出ツヘシ之レヲ變更シタル場合亦同シ

第八條 郡市又ハ郡市農會若ハ同業組合ノ補助金精算額豫算額ヨリ減少

シ若ハ事業成績不良ト認ムルトキハ補助金交付指令ヲ取消シ又ハ獎勵金ノ一部若ハ全部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ申請期日ハ大正七年ニ限リ四月二十日マテトス

(第一號樣式)

稚蠶共同飼育組合

組合名	組合員數	教師員數	同給料額	春蠶	立蠶	秋蠶	量

(第二號樣式)

稚蠶共同飼育組合成績表

組合名	蠶種ノ化稱	掃立上簇掃立	收繭量	同上	上繭一貫目ニ對スル價格	最高最低平均	販賣金額	玉繭計	中下繭	上繭	日蠶量	月日	日蠶量	月日	姓名稱	
																繭

備考

左記事項ノ附記ヲ要ス

- 一、共同桑園ノ反別及其設置計畫ノ大要並ニ成績
- 二、共同販賣ノ成績
- 三、其他ノ參考事項

(第三號樣式) 稚蠶共同飼育組合精算書

組合名	經費		郡交付額同上割合	備考
	教師給	其他經費		

275
145

大正七年五月一日印刷
大正七年五月五日發行

宮城縣蠶業取締所內

宮城縣蠶種同業組合聯合會

宮城縣仙臺市大町四丁目一七六

印刷者 黒澤清四郎

宮城縣仙臺市大町四丁目一七六

印刷所 仙臺印刷社

(電話二二六番)

終

